

第4回公開研究会（上海シンポジウム）開催趣旨

中国、日本、朝鮮などの東アジア諸国に設置されていた租界、居留地、租借地等に関連する研究は近年の歴史研究分野においてもっとも活発な研究成果が報告されている分野の一つである。この租界等に関連する研究をテーマに取り上げた本研究グループは、神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003 年～2007 年度）の第3班「環境と景観の資料化と体系化」に参加し、その成果の一部を「中国における日本租界研究」（2007 年、神奈川大学）、「中国進出の日本企業とその建築―戦前の紡績業を事例として」（2007 年、神奈川大学）の2回のワークショップで発表してきた。その後 2008 年からは神奈川大学非文字史料研究センターの研究活動に参加して現在に至っている。今回の上海シンポジウムは、神奈川大学非文字史料研究センターと上海・東華大学人文学院が主催して行うもので、今まで租界研究に関わってきた中国、韓国、日本の研究者が集って、租界とメディア・外国人・建築などの関係においてそれぞれ最近の研究状況を報告し、今後、租界に関連する新たな共同研究の可能性を模索する機会としたい。